

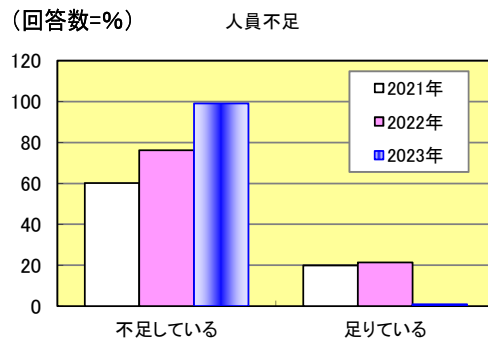
# 23 春闘「整備安全アンケート」集計結果①

## 回復局面で整備の人員不足は深刻

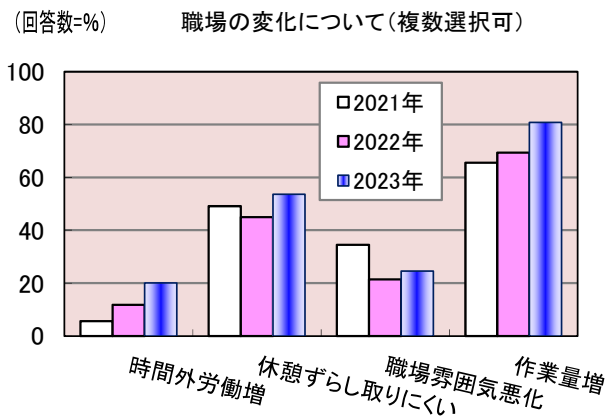
今年1月に実施した「整備連 整備安全アンケート」の集計結果の報告です。回収枚数は224で、ライン整備160、ドック整備43、ショップ整備2、スタッフ19となり、勤務は2交代77人、3交代132人となっています。このアンケートはANAグループでも取り組みが続いていますが、今回も除いて集計しました。今年から質問に年齢を入れていますがJALに限定して集計すると50代が86%になりました。このアンケートではJALEC社員もJAL系に含まれるため20代、30代から3件の回答がありました。外航は内容を変えて違う時期に取り組む予定です。全体像は整備連で分析します。

### □ この1年間の職場の変化について

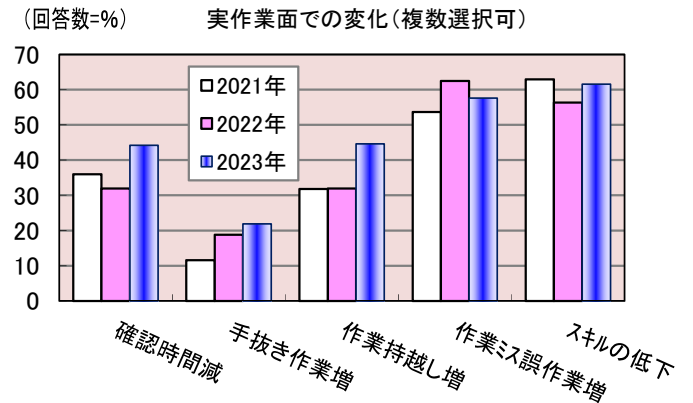
■ 職場の人員については、「不足している」が昨年の76%から更に増えて99%に。「どこの職場も人員不足で～」と交渉で伝えてきましたが、整備の職場ではしっかり数字に表れました。復便が進み、あらゆる職場で人員不足が問題になっています。



■ 職場の変化について、選択項目を選ぶ設問では、全ての項目が昨年を上回りました。運航便の供給量が増えるとそれだけ整備機会も増えるので当然の結果と言えますが、「職場の雰囲気悪化」が連動して上がるところは注意して見ていく必要があります。

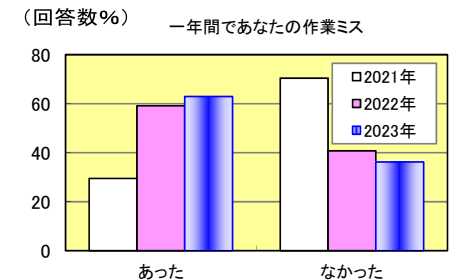


■ 職場の実作業面での変化については、「確認時間減」と「作業持越し増」が急増。復便で忙しくなる中で、確認時間が減ってきていると同時に、部品不足による作業持越しの事例も多く聞きます。スキルの低下を心配する回答が多いことについては、会社として深掘りすべきでしょう。

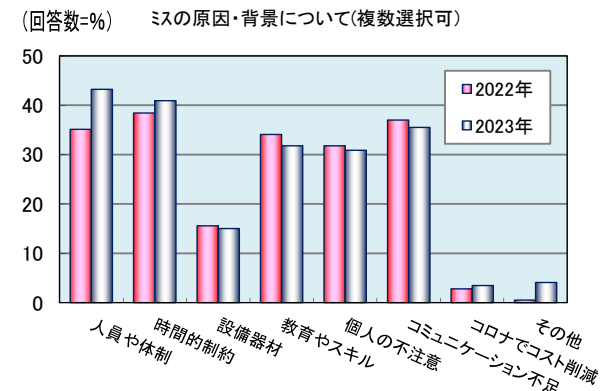


### □ この1年間の作業ミスについて

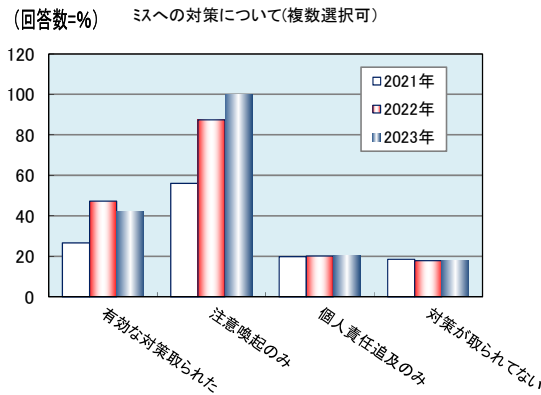
■ 自らの作業ミスについても聞いています。今年も6割以上が作業ミスがあったと答えています。作業量が増えていることによる実作業のミスもありますが、書類のミス、電子ログのミスも含まれています。人員不足の中、短時間での書類整理を任されているため、ミスが増えていることがわかります。



■ ミスの原因について昨年と比較してみると、「人員や体制」「時間的制約」が増えています。昨年からのコミュニケーション不足を設問に加えていますが、あまり改善されていないようです。その他の理由として「複雑怪奇な書類」「紙と電子で規定が違う」という回答もありました。

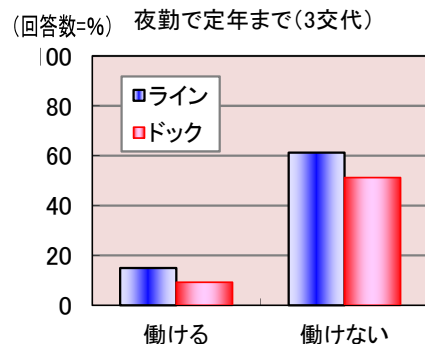
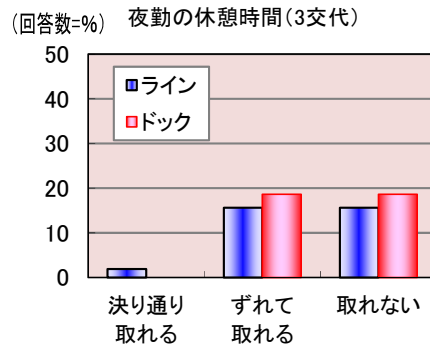
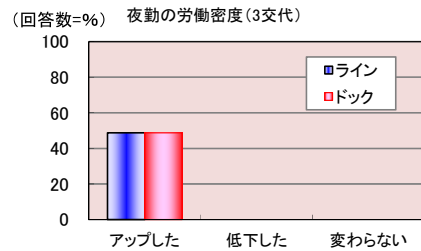
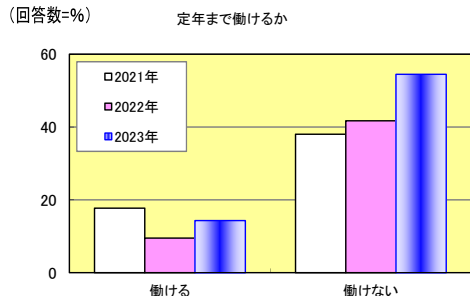


■ ミスへの対策については、3年間の経過を見ています。「注意喚起のみ」が更に高い割合となり 100%に。対策が増えすぎて、書類が複雑になるのも問題なので難しいところ。一方で、「有効な対策が取られた」にも4割の回答があります。こちらが増えるように有効な対策を考えて現場に浸透させていくべきです。

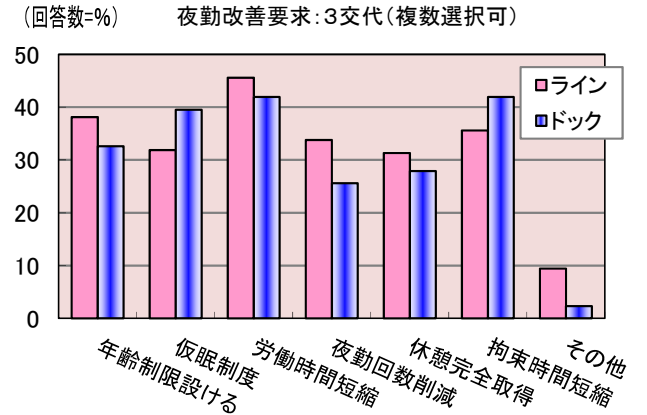


## □ 夜勤の実態について

■ 恒常的に夜勤を行っている人に質問をしていますが、今年は労働密度が「アップした」という回答がライン・ドック共に49%と、昨年のライン 36.4%、ドック 43.1%より増加。「定年まで働けるか」への回答を3年間で比較すると、作業量が増えている今年「働けない」が55%になりました。休憩時間が決まっているドック職場でも、夜勤で大きな作業をしているため、休憩時間が「ずれて取れる」「取れない」がどちらも増えています。パイロットの職場では疲労リスク管理(FRM)が導入されています。整備ではまだ具体的な話はなく、「作業の負荷を生産的、組織的な面で見えていく」に留まっています。疲労が貯まらない勤務形態を求めています。



■ 夜勤の改善要求については、ラインは「労働時間短縮」、ドックは「夜勤の拘束時間短縮」が一番多くなっています。ドックの3シフトはラインより80分長いので夜勤の負荷が高いのでしょう。ラインは夜勤は短いものの、E,D勤務、S勤が長すぎるので、全体の労働時間短縮を訴えています。



### 夜勤の「定年まで働けない」理由の記述内容

◆ 現行夜勤職場で定年まで働けないと答えた122件(昨年126件)中、120件(昨年117件)の理由の記述がありました。一番多いのは、「体力が持たない」といった健康上の理由です。「労働密度」や「人員不足」への回答もありました。

#### 【具体的記述内容抜粋】

- 働けるのかもしれないが、身体を壊す前提です。夜勤手当=健康(命)の切り売り。
- 到着時間がほとんど遅く、夜勤作業が多く時間も限られているので50歳超えると体の負荷がかかる。
- 夜勤が人体に与える影響を勉強して下さい。
- 年齢が高くなるけど、現役と同じ仕事量は無理。年齢的に無理でもさせる羽田の現場はおかしい職場。
- 人材が不足している。人員はいるが特定の資格者(ラ確、BSI資格者、STR資格者)の負担が多い。
- 休憩なし、場合によっては食事抜き重労働では身体がもたない。
- 夜勤が時短になったが、予備機不足により、朝迄に仕上げなければならず、労働密度が上がっているため。
- 勤務時間が不規則で時間が無い中で高齢者に求めるものが多すぎる。
- 保有資格の機体が退役していくため。

◆ 夜勤改善要求の質問「その他」の記述では、「人員増」の他に「計画工数の半減」「予備機の確保」などの改善策も寄せられました。深夜労働割増は破たん時に49.5%から25%に下がったままのため「手当増」を求める声もあります。